
不条理の煙

千葉

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不条理の煙

【Nコード】

N4102P

【作者名】

千葉

【あらすじ】

脳内の不条理達をその煙草の煙と一緒に吐きだすことが出来たなら、それはどんなにか素敵なことだろう

「もやもやもやしちゃってそれがもう厭なの！生きるの面倒くさいとか思うくせに思ってた終わりなの
それがなんかもう許せないっていうかだってそんなのって中途半端じゃない、そんな半端なことするくらいなら本気で死んじゃえば良いのについて思うの！！」

彼女は酷く高い声で、そこまで一気に捲し立てた。

（荒れてんな…）

啜っていた煙草を灰皿にぎゅっと押し付ける。小さな音を立てて煙草の火が消えた。

ずっしりと重く痛い頭を少し振ると、逆効果だったのか少し眩暈がした。

「だけど結局そのまんま十何年も生きてるわけ！でも別に死ぬ勇気が無いとかじゃなくってなんかもうそれすら面倒くさいっていうか、とにかくわたし面倒くさがりでは全世界クラスだと思うの！！」

一生懸命喋っているところ悪いが、少し趣旨が変わってきた。

溜息を吐いて煙草の箱を開ける。残りが一本しか無いことに気付いて、瞬時に脳内の記憶機能を高速機動。彼女の話の聞きだしてからもう6本の煙草を潰していることが発覚した。3日前まで細々としていた一週間に渡る禁煙生活はもはや無効だろう。完全に今まで

我慢してきた成果が泡と消えた。
全てこいつのせいだ。くそ。

「だからほんとにもう…その煙草くれ!!」

彼女はそう叫ぶと、俺が疑問詞を一つ発する間も与えず、猛スピードで右手を伸ばしすでに俺の口に咥えられていた煙草を引っ手繰った。それを自らの口に咥え、机に放置してあった俺のライターで火を灯す。赤い点がぼんやりと灯り、次いでゆらゆらと煙が流れ出した。

「…それ最後の一本なんだけど…」

「知るか!この煙草が無いとわたし死んじゃうの!」

「…死にてえんじゃねえのかよ。」

「うつさい!あんたの安っちい煙草一本で人の命が救えるのよ?」

彼女の甲高い声が頭に響き、更に頭痛が悪化する。何度目かの溜息とともに空になった箱を握りつぶし、ライターと一緒にポケットへと収納した。

それから、視線を上げ彼女の表情を窺い見る。

「…落ち着いた?」

「ん。ありがと。」

彼女は満足気に煙を吐き出した。

俺の安っちい煙草一本でこれ以上だったらと脳内の不満要素をぶち

まけられるのを防げるのなら、
大した代償ではないのかも知れない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4102p/>

不条理の煙

2010年12月10日07時59分発行